

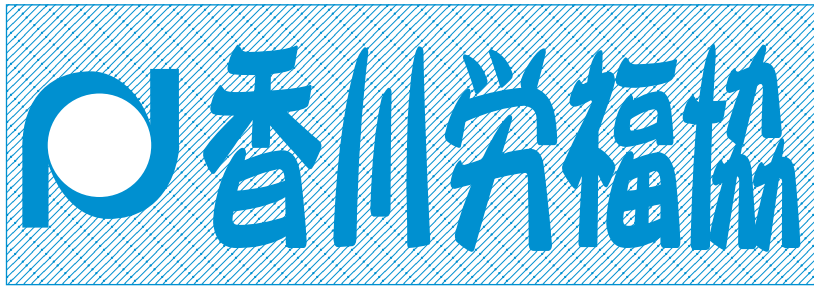
香川労福協機関紙

No. 208号

四国労働金庫

こくみん共済coop

連合香川



(一社)香川県労働者福祉協議会

高松市番町3-5-15

四国労金番町ビル

TEL 087-833-4253

FAX 087-833-4255

発行責任 福家良一

編集責任 熊野浩信

謹賀新年



香川県労働者福祉協議会
会長 福家良一

新年あけましておめでとうございます。

香川県労働者福祉協議会の会員みなさま、また関係諸団体のみなさまにおかれましては健やかな新年をお迎えになられたことにお慶びを申し上げます。

また旧年中は弊会ならびに労働福祉団体へのご理解とご協力を賜りましたことにお礼申し上げます。

昨年元旦、能登地方を襲った大地震で多くの方が被災されました。

私も珠州市でのボランティアに参加しましたが、6月時点では倒壊した家屋の解体も、仮設住宅の建設もまだまだの状況を目の当たりにしてきたところです。

昨年も申し上げましたが、世界情勢や経済環境含め不透明感が漂う中、賃上げは続いています。物価高に追いつかず、働く人たちにとってゆとりがある生活とまでには至っていません。

そのような中、香川労福協では、連合香川や

労金、こくみん共済coopと連携し、働く人々を側面から支援するとともに、昨年も多くの参加をいただいた「グッド・らいふ」事業を企画し、「家事サポートセンター」を介してOBの方々への支援、そして地域の方々への支援として「くらしの相談センター」や「フードドライブ」の運営も引き続き取り組むことといたします。

労働者福祉事業はみなさまのご支援無くしては成り立ちません。引き続き香川労福協ならびに労働者福祉団体へのご支援をお願いし、年頭のご挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



お
め
で
と
う
ご
ざ
い
ま
す



労働者福祉中央協議会
会長 芳野 友子

新年明けましておめでとうございます。

日本経済全体が落ち込む中で、光熱費や食品など生活に直結する分野の値上げが続いています。このなかで、2024年の年間出生数は初めて70万人を割り込むことが予想され、最悪のペースで少子化が進行しています。さらには「健康で文化的な最低限度の生活」を保障するはずの生活保護費も段階的に削られ続けるなど、格差や貧困、社会の分断が深刻化しています。

このような今こそ、私たちは、生活困窮者支援の取り組みや、ライフサポート活動、こども食堂の取り組みなど、地域の様々なネットワークで支え合い助け合う、地域共生社会の構築をめざした取り組みを、力をあわせて進めていかなければなりません。

高等教育の負担を軽減するについては、「すべての人が学べる社会へ 高等教育費負担軽減プロジェクト」の取り組みに結集し、「団体賛同・個人署名」の取り組みを進めてきました。多くの方々にご協力いただきましたことに、心からお礼申し上げます。通常国会では大学等修学支援法の改正が見込まれています。私たちはこれを機に、修学支援制度の対象範囲の拡大など、高等教育の負担軽減をもとめて、取り組みを強化していきます。

また、今年は国連の定めた国際協同組合年です。改めて労働者自主福祉運動や協同組合運動などの共助の輪を広げるとともに、NPOや市民団体などともつながり、持続可能な開発目標（SDGs）の実現に向けた協同組合の実践、社会や経済の発展への協同組合の貢献に対する認知を高める取り組みを、ともに進めていきましょう。

最後になりますが、2030年ビジョンにおいて確認した「貧困や社会的排除がなく、人と人とのつながりが大切にされ、平和で、安心して働きくらす持続可能な社会」を実現するための取り組みを、組織の枠を超えて、労働者自主福祉の取り組みを展開していくことをお誓い申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

労福協



暮らしに安心・安全を

労福協は、「すべての働く人たちの幸せと豊かさ」をめざして、労働組合がつくり育ててきた「ろうきん」・「こくみん共済coop」と一緒になって、働く人の暮らしの安心・安全を支援するお手伝いをしています。

今、私ができること。
今、お友達ができること。

高等教育費の負担軽減を

私たちが求めること

1

授業料を半額に

2

大学等修学支援制度の拡充を

3

奨学金返済の負担軽減を

Onlineで
声を届けよう

公的負担の大幅拡充を!

私たちのアクションにご参加ください!

団体賛同・個人署名はこちらから

すべての人が学べる社会へ 高等教育費負担軽減プロジェクト

労福協四国ブロック連絡会

(公社)徳島県労働者福祉協議会
(一社)高知県労働者福祉協議会

(一社)香川県労働者福祉協議会

(一社)愛媛県労働者福祉協議会

明けまして
おめでとう
ございます



こくみん共済coop香川推進本部
本部長 井出 哲夫

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

また、平素よりこくみん共済coopの助け合い運動に、格段のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、2024年を振り返ると、新年早々1月1日に発生した能登半島地震にはじまり、台風10号、南海トラフ地震臨時情報が初めて発令されるなど、自然災害が多く発生した1年でもありました。国土交通省の災害リスクエリアに居住する人口調査によると、香川県には災害リスクエリア内に97.4%（95万人）が居住しているという統計資料があります。その大部分が地震による災害となっており、南海トラ

各地区集会を開催

11月下旬から12月初旬にかけて、県下6地区の推進会議において集会を開催し、上半期の活動を振り返るとともに、下半期の推進について協議を行いました。下半期については、年度当初に確認した活動計画の完遂を基本としながら、とりわけ自動車関連共済および自然災害共済を重点共済と位置づけ、あらたな仕組みである公式アプリの促進とあわせて取り組むことを確認いただきました。また、各地区集会では、香川県労福協から熊野専務理事をお招きし、「労働者福祉運動の今日的な意義と役割」について学習しました。



2024年11月18日丸亀地区集会

フを震源域とした地震にともなう被害想定であることは言うまでもありません。

こくみん共済coopは、戦後復興間もないころ、「誰もが入れる保障があれば、安心して働ける」「みんなが力を合わせれば実現できる」という思いで結実し、火災共済事業からスタートしました。労済運動の原点である住まいの共済の誕生70周年を契機とし、防災・減災の取り組み強化をすすめています。「もしもへの備えとその前後の安心」「社会課題解決への取り組み」これこそが、働くなかまのたすけあいから始まったこくみん共済coopに与えられた使命と考えています。

「みんなでたすけあい、豊かで安心できる社会づくり」を実現するために、あらためて皆さまとともに「暮らしを守る取り組み」を進めてまいります。

結びに、2025年が皆さまにとりまして、健康で幸多き年となりますことをご祈念申しあげ、新年のご挨拶といたします。

第1回産別推進委員会を開催

2024年11月20日に第1回産別推進委員会を開催しました。上半期の活動報告および下半期の推進活動について協議をおこなったほか、FPユニオンLaboの宮越さんをお招きし、「組合員の資産形成」を主テーマとした学習会を行いました。資産形成に関する組合員ニーズの高まりもあり、労働組合役員としてどのように組合員の将来不安を軽減すればよいのか、また、労金の各種商品や産別固有の共済、こくみん共済coopの新団体年金共済の活用策など具体的な事例紹介も交えながらの講演となりました。参加者アンケートからも非常にわかりやすい講演だったとのご意見も多くいただくことができました。



明けまして
おめでとうございます



四国労働金庫
香川営業本部長 橋本文弘

新年あけましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、ご家族やご友人お揃いで健やかな新年をお迎えられたことと心よりお慶び申し上げます。また、平素より、「四国ろうきん」推進にあたり格別のご理解とご協力を賜っておりますことに深く感謝申し上げます。

昨年来より世界情勢悪化・混乱を起因として原材料不足や物価高といった様々な影響などにより、私たちの生活を直撃し続けています。

このような中、私たち「四国ろうきん」は、相互扶助を大切にして働く人の夢と共感を創造するため、“ろうきんの理念”の基その役割をより発揮していかなければなりません。金融知識や幅広い見識に加え“ろうきんらしい”心配りをもって訪問・対面営業を積極的に展開するなど、働く者の生活実態・環境変化を見逃さず、若年から熟年まで全世代の声を聞き、各々のライフステージに役立つ商品提案や情報提供に努め、働く者に寄り添ったお役立ちできるように頑張っております。働く仲間が作り、働く仲間が利用し、生活者本位に考える協同組織の福祉金融機関として、その役割を果たし、会員やお客さまに信頼され選択され続けていただけるよう努力を重ね日々の業務遂行に邁進してまいります。

最後になりますが、会員の皆さまには「ろうきん運動」推進に対するご理解と、引き続いてのお力添えをいただけるようお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もよろしくようお願い申し上げます。

「四国ろうきん社会貢献活動のご紹介」

会員・お客さまの利用によって得た収益を社会貢献に役立てています。

○社会貢献活動団体等に対する助成金贈呈活動

2002年から四国内で地域の福祉活動をしているボランティア団体・NPO法人等に助成金を贈呈しています。（2024年度の香川県実績：6団体・726,000円贈呈）

○1万人笑顔プロジェクトによる寄付金贈呈活動

2018年から教育・子育て支援・障がい者支援・環境保護を行う団体等に対して寄付金を贈呈しています。（2023年度の香川県実績：1団体・137,800円贈呈）



助成金贈呈式

○ピンクリボン運動に対する寄付金贈呈活動

2012年からピンクリボン運動に対して寄付金を贈呈しています。（2023年度の香川県実績：127,882円贈呈）

○その他の主な社会貢献活動

- ・2012年から「高校生のための消費者講座」を開催しています。
- ・2023年から「働く人と子どもの明日を応援プロジェクト」を実施しています。



笑顔プロジェクト贈呈式

R ろうきん

あけまして
おめでとぅございます

本年もよろしくお願い申し上げます

二〇二五年 元旦

はたらくあなたの
いちばんそばに。



労働者福祉運動の理念・歴史・リーダー養成講座に参加して

2024年8月2日～3日

四国労働金庫 本店営業部 豊嶋 健心

8/2・8/3と日をまたいで開催された今回の研修を通じて、労働者福祉運動の始まりや歴史について学習し、またこれからの労働者福祉運動について考える機会を得ることができました。

講師の高橋様・南部様の講義でどちらも自身の知識を深めることができ、今自分が勤務している四国労働金庫の運営理念について今一度自覚することができました。労働者福祉運動の成り立ちやこれまでについて、聞いたことのある歴史について再学習することができたことはもちろん、今まで知らなかったエピソードや協同組織と企業の違いなどを知ることができ、積み重なった歴史の上に立っている一員として理念に対して理解を深めることができました。特に「福祉はするものとされるものではない」「福祉はひとつ」という言葉が深く印象に残ります。自分も助けられているという意識をもって、今後に活かしたいと思います。

また、二日目にあった分散会ではこくみん共済coopの方や企業労組の執行委員の方など、

同じ労働者福祉という起源をもっているにもかかわらず話すことのない方と理念やこれからの組織の在り方について話し合うことができました。お互いの労働環境や業務に関してはもちろん、講義でも言及されていた「労働者のことを考えた立派な理念のもと運営されている労金や全労済がなぜ爆発的に発展しないのか、多くの労働者に広まっているといい難しい状況なのか」について他の組織の方の受け止め方や対策案について聞き、また意見を伝えることのできる貴重な時間でした。こうした話し合いが協同組織にとって重要な人と人との連帯につながるのではないかと考えます。

労働者自主福祉のこれまでとこれからについて他組織の方の意見も含めて考えることのできる意味のある研修でした。今回学習したことを胸に刻んで業務を行うとともに、分散会のテーマでも触れた「労働者福祉運動を自分事として考えてもらう」ことについて、そのためにどうすればいいのかをこれからも考えていきたいと思っています。

こくみん共済coop 香川推進本部 能津 由紀子

西部労福協主催の「労働者福祉運動の理念・歴史・リーダー養成講座」では、各講師の貴重なご講演や、さまざまな組合の方々との交流を通じて、労働者自主福祉運動に関する知見を深めることができ、私自身にとって、本講座は大変有意義かつ貴重な学びの場となりました。

1日目の高橋講師のご講演では、労金・全労済の成り立ちと労働組合・労福協との関係性について、戦後直後の労働運動から歴史をたどりながら丁寧に解説いただき、労働者自主福祉運動や協同組合についてあらためて学び直すことができました。

また同日の中央労福協南部事務局長のご講演では、「中央労福協とは」から始まり、日本の現状・社会の変化と絡めながら、労福協の理念と「2030年ビジョン」についてご講演いただき、労福協の原点である「福祉はひとつ」を継承していくことの大切さを学びました。

2日目のグループに分かれての分散会では、

「労働者福祉運動を自分事として考えてもらうためには」というテーマで、さまざまな組合の方々それぞれの組合が抱える悩みや課題も交えながら、活発に有益な意見交換を行うことができました。

本講座のタイトルにも掲げられているように、本講座での学びを活かし、労働者自主福祉運動が浸透していない若い世代や周囲の方々に、労働者自主福祉運動の理念や歴史を語り継いでいくことができるリーダーとなっていきたいと思っています。



～グッド・ライフ～

「町おこしin塩江」を開催

8月24日(土)、高松市塩江町「モモの広場」において『町おこし in 塩江』を開催しました。今年度については、夏の奥塩江を感じてもらいたいとの気持ちから、開催時期を夏休みの8月に変更して開催しました。過去最高の85名(大人32人・子ども30人・スタッフ23名)の参加を得て、盛大に開催することができました。

そうめん流しとそうめん用の竹の器作り、パン作り体験とバーベキュー、そして川遊び体験をゆったりとした自然の中で、



ゆっくりと流れる時間を味わいながら満喫することができました。

特に川遊び体験は子どもたちに大好評で、小魚とか沢蟹を捕まえて大はしゃぎでした。(お父さんも童心に返って楽しんでましたが)



また、思いのほか竹の器作りも子どもたちに大好評で、慣れない手つきで器作りに奮闘していました。

今後も自然豊かな中でゆったりとした時間を感じながら、体験を中心としたイベントとして開催していきます。

～グッド・ライフ～

「町おこしin女木島(鬼ヶ島)」を開催

9月21日(土)、高松市女木島(鬼ヶ島)において「町おこし in 女木島(鬼ヶ島)」を34名(大人17名、子ども9名、スタッフ8名)の参加を得て盛大に開催しました。

今回は、イノシシ被害が発生し落花生の収穫体験については中止となりましたが、海岸と松原の清掃活動に変更し、短時間ではありましたが、参加者全員で美しい島を残そうと奮闘しま

した。その後、バーベキューを5班に分かれて楽しみました。今回も火起こしから片付けまで参加者全員が協力して行い、食材の美味しさもさ



ることながら、協力することの楽しさ、すばらしさを味わうことができました。さらに、洞窟見学では、名ガイドさんのウイットに富んだ説明によって、洞窟の歴史・まつわる話について楽しく理解することができました。今回の町おこしでは、「島の自然に触れ、島特有のゆったりとした時間の流れを全身で感じること」ができ、有意義な1日となりました。



こくみん共済 coop



「もしも」も「いつもの暮らし」も。こくみん共済 coop は、暮らしを丸ごと支えます。

病気やけが、自然災害(台風・地震)、将来への備えなど、私たちの暮らしはさまざまな「もしも」と隣り合わせです。こくみん共済 coop では、共済(経済的保障)を中核に、事前の備え、事後のフォロー、生活全般までトータルにサポートし、組合員とご家族の暮らしに確かな安心をお届けします。

こくみん共済〈全労済〉
全国労働者共済生活協同組合連合会 coop

こくみん共済 NEWS

中四国統括本部

徳島推進本部(徳島県共済生活協同組合)
香川推進本部(香川県労働者共済生活協同組合)
愛媛推進本部(愛媛県共済生活協同組合)
高知推進本部(高知県労働者共済生活協同組合)

～グッド・ライフ～

「ふれあい芋ほり大会」を開催

芋ほり大会を、10月20日(日)に三木会場・まんのう会場同時に開催しました。

当日は両会場とも何とか天候にも恵まれ、三木会場179名(大人102名、小人77名)、まんのう会場133名(大人87名、小人46名)と多く方に参加いただき、泥まみれになりながら芋ほりを楽しんでいただきました。夏の猛暑



の影響で今年もさつま芋が不作ではないかと心配していましたが、思いのほか芋も大きく、参加者には喜んでいただけたようでした。恒例のお子様ビンゴ大会也大いに盛り上がり、楽しい秋のひと時を終えました。

最後に、芋の植え付け準備から収穫までの維持・管理をしていただいた地元スタッフの方には心より感謝申し上げます。



「USJ日帰りバスツアー」を実施

～多くの家族・グループで賑わいました～

11月16日(土)、香川県内から293名(35会員、大人220名・小人73名)の参加を得て実施しました。

実施時期を8月から11月に変更したこともあって、募集初日より申し込みが殺到し、1か月程度の募集予定が4日で募集締切となり、キャンセル待ちが60名ほど出るなど、実施前から本イベントの人気の高さがうかがえる状況でした。

当日は、早朝より多くの親子、グ



ループの方に参加いただき、少し雨には降られましたが、楽しい時間を過ごしていただきました。

参加者からは「スタッフの親切な対応に感謝している。次回もぜひ参加したい」とのうれしい感想もいただきました。また、「毎年実施してほしい」「楽しかった。8月実施からこの時期に変更してもらって参加しやすかった」とのご意見もいただいています。



～グッド・ライフ～

「第2回男の料理教室」を開催

日 時 12月14日(土)
場 所 高松市仏生山交流センター
(ふらっと仏生山)

今回の料理教室については、対象者を従来の男性に限定せず、家族(親子・夫婦)も対象に開催しました。当日は8組の親子・夫婦に参加いただき、「親子・夫婦で協力しながら料理作りを」



テーマに、『萩ごはん・チリコンカーン・イワシのかば焼き風・レタスのスープ・大根彩りサラダ・フルーツ寒天』を和やかな雰囲気の中、協力し合いながら調理しました。

家族(親子・夫婦)で料理作りをすることで、家事労働の大変さ、そして、協力することの大切さも実感でき、今後の家庭での振舞い方に期待が持てるものとなりました。

